

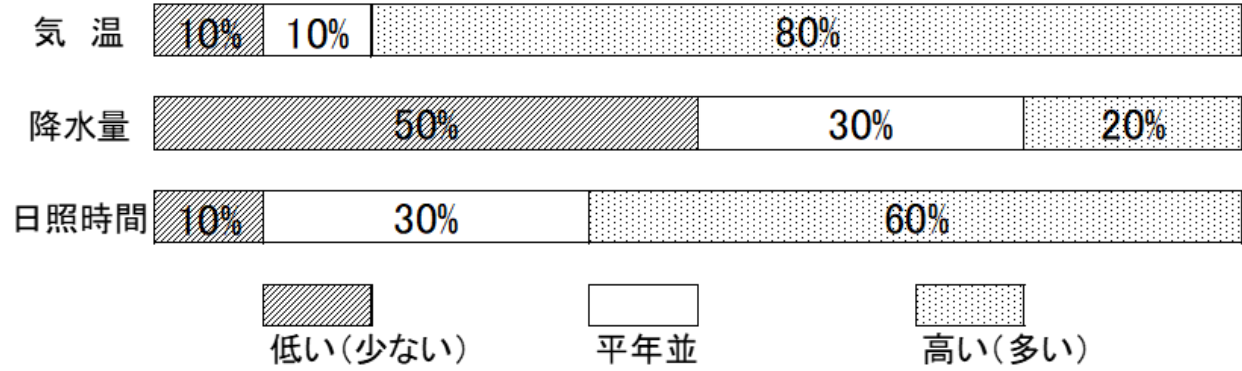
令和7年度 病害虫発生予察情報
発生予報第4号（7月）

令和7年6月30日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	葉いもち	平年並
		紋枯病	平年並
		縞葉枯病	平年並
		黄化萎縮病	平年並
		ヒメトビウンカ	やや少ない～平年並
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い
		ツマグロヨコバイ	少ない
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	やや多い
		コブノメイガ	平年並
果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	やや多い
		黒斑病	少ない
		黒星病	少ない
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	少ない～やや少ない
		アブラムシ類	平年並
		カキミガ	平年並
		カキミガ	平年並
		カキミガ	平年並
野菜	果樹全般	カメムシ類	平年並
	イチゴ	うどんこ病	やや多い

中国地方1か月予報(6月28日～7月27日・広島地方気象台6月26日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



中国地方1か月予報(6月28日～7月27日・広島地方気象台6月26日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月25日に本田での初発生を認めた。
- ② 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が1.4%(平年1.0%)、発病株率が0.1%(平年0.3%)と発生量は平年並みである。
- ③ 6月14~17、24~25日を中心に、県内各地で感染好適日が出現している。
- ④ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ⑤ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率0.3%、発病株率0.0%)。
- ② 常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月24日に本田での初発生を認めた。
- ② 媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや少ない~平年並みと予想される。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%(平年0.9%)と低い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方	常習発生地
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 近年、本病の発生は少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	やや少ない~平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は13.3%(平年30.5%)、捕獲数は0.4頭/50株(平年3.2頭/50株)となり、本種の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 6月第5半旬までにネットトラップ(出雲市)で4頭(平年値2.3頭)が誘殺された。予察灯(出雲市)での誘殺は確認されておらず、誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(6) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0% (平年 0.23%) で発生量は平年並みである。
- ② 6月第5半旬までの予察灯における誘殺数は451頭 (平年値 26.9頭)、フェロモントラップにおける誘殺数は69頭 (平年 82.8) となっており、誘殺数は平年よりやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は6.7% (平年 16.8%)、捕獲数は0.2頭/50株 (平年 1.1頭/50株) となり、本種の発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第5半旬まで粘着誘殺灯 (出雲市) で1頭 (平年 3.3頭) が誘殺された。予察灯 (出雲市) およびネットトラップ (出雲市) において本種の誘殺は認められていない。
- ② 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は46.7% (平年 34.6%)、捕獲数は2.6頭/50株 (平年 2.7頭/50株) となり、本種の発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板 (出雲市)、ネットトラップ (出雲市) での誘殺は認められていない。
- ② 6月下旬に実施した巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は2.2% (平年 0%)、捕獲数は0.13頭/50株 (平年 0頭/50株) となり、本種の発生量は平年に比べて多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板 (出雲市)、ネットトラップ (出雲市) での本種の誘殺は認めていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6 月下旬に実施したほ場周辺雑草地でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は 100%（平成 70.3%）、捕獲頭数は 27.7 頭/20 回振り（平成 12.4 頭/20 回振り）となり、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 6 月第 5 半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は 59 頭（平成 47.8 頭）と平成並みである。
- ③ 向こう 1 か月の気象は、特に本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

- ① 6 月下旬の巡回調査では、発病葉率 3.7%（平成 5.9%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

- ① 6 月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.2%（平成 1.0%）と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平成並

発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平成並み、6 月第 6 半旬までの誘殺数は平成並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平成並

発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平成並み、誘殺数は平成並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

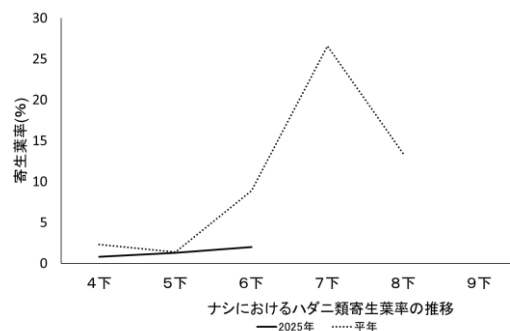
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率 2.0% (平年 8.9%)、寄生虫数 2.5 頭/50 葉 (平年 17.2 頭) と少ない (右図参照)。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



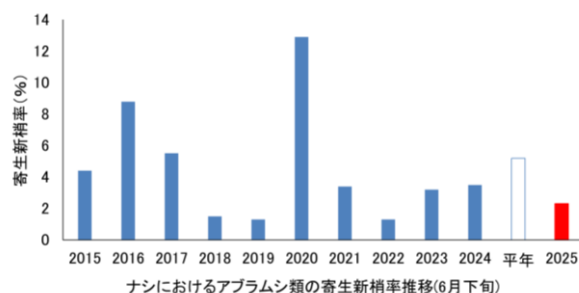
(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 2.3% (平年 4.7%)、寄生度 2.3 (平年 1.9) と平年並みである (右図参照)。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③ 向こう 1 か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 (感染量) やや少ない

予報の根拠

- ① 前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) カキミガ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は188頭 (平年値 531.3 頭) と平年並み。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) イチゴ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率が12.7%（平年9.1%）と、発生量は平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp